

タンザニアの3カ年経済再建プログラム(特集 アフリカ諸国の開発計画)

著者	吉田 昌夫
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アフリカレポート
発行年	1986-09
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00008775

いての合意ができ、この予算案はその第1年度めを構成するものであることを明らかにした。

1986/87年度より3年間をカバーする経済再建プログラムは、年率4.5%のGDP成長率を計画しているが、その主要目的は次のようなものである。

- (1) 農業生産すなわち食料作物と輸出向け作物の生産を増大する。それは生産のための適切なインセンティブ、農産物流通機構の改善、農業に向けられる財の増大によって達成される。
- (2) 輸出による外貨稼得を増加する。その目標は1986年に4億ドルと推定される輸出額をベースに、87年に11.6%、88年に19%、89年に19%の伸び率を達成することにある。
- (3) 国内の重要な物的インフラストラクチャーを修復する。それは運輸・通信、エネルギー、水供給など直接的生産活動を支援するためである。
- (4) 既存工業の稼働率を高める。生産性向上の見込みがある工業に選択的に外貨を配分することにより、GDPに占める工業セクターのシェアを回復する。その目標は現状の20~30%の稼働率を、プログラム終了時に60~70%にまで高めることにある。
- (5) 国内および対外の収支バランスを、賢明な財政、金融、貿易政策により回復する。

この3カ年プログラムに要する資金は、総額45億7400万ドルにのぼると想定されているが、うち国内調達分は8億3100万ドルで全体の18%、外貨分が37億4300万ドルで82%にのぼっている。このように圧倒的に大きい金額を国外資金に頼っているということは、前の構造調整プログラムと同じく、プログラムの成否は、国際機関も含めた対外援助が得られるかどうかにかかっているといても過言ではない。外貨分の必要額は、第1年度が

12億500万ドル、第2年度が12億3800万ドル、第3年度が13億ドルと見積られている。ムスヤ大蔵大臣は予算演説のなかで、タンザニア政府が最近パリにおいて、IMF、世銀、および好意的な諸外国や金融機関と話し合いの機会を持ち、これら諸機関が新経済再建プログラムに対してどのような援助をなし得るかについての合意を見たと言った。このことはタンザニアが1986年3月末現在で、7億ドル返債未納の債務をかかえているにもかかわらず、この債務繰延べと同時に、新規借款についてもある程度の見通しを得たものと考えられよう。ムスヤ大蔵大臣のその後の国会発言においても、IMFとのスタンドバイ・クレジット供与に関する合意が間近である（『デイリー・ニュース』紙6月26日）ことを明らかにしている。

このIMFとの合意の条件を満たす措置として、タンザニア政府は本年4月時点のシリング貨の対ドルレートを59.7%切下げ、1ドル=40シリングの基準レートを6月20日より採用することを予算演説で発表したのであった。

2. プログラムの重点分野

新3カ年経済再建のプログラムは、まず農業部門を重視して、食料作物と輸出向け作物の双方の生産拡大のために約1億4300万ドルの資金投入を計画している。生産拡大の方策として、農民に対する十分な普及サービスの提供、農業研究の強化、および肥料、殺虫剤、農機具、飼料、麻袋など農業投入財の供給増大をはかる。灌漑プロジェクトおよび食料作物の大規模農場の開発にも力点を置く。輸出向け作物のリハビリテーション・パッケージを実施してゆく。また農民に対してインセンティブを与えるため生産者価格の大幅値上げを行なう。

工業に関しては、稼働率を少なくとも60%に引

き上げるため、1億2300万ドルの資金投入を計上する。さらに国家経済に特に重要性が高く、すでに着手したプロジェクトを優先的に完成させ、強化する。

運輸・通信の分野については、港湾施設や倉庫を拡充し、現在進行中の事業を行なうほか、積極的に道路修理を行ない、運輸状況を改善する。また必要な部品輸入などをおして、作業所や建設機器、通信機器のリハビリテーションをはかる。

エネルギー部門に関しては、代替エネルギー開発を含み、電力および水の供給を重要な生産セクターに配分するために、投資・リハビリテーション活動を強化する。

社会サービス部門に関しては、政府が生産活動部門に力点を移したにもかかわらず継続して強化してゆく方針をとる。医療、教育、水道などがこれに当り、他の部門と同じくこの部門においても、現存する施設を完全利用し、経常的な必要を満してゆくことを重視して、サービスの質の向上を

1986/87年予算	
	単位：100万シリング
経常収入	33,620
外国贈与・借款	17,333
銀行外借入れ	2,143
銀行借入れ	2,500
収入計	55,596
経常支出	39,736
開発支出	15,860
支出計	55,596
(出所) <i>Daily News</i> , 20 June, 1986.	

標とする。

以上が新プログラムの重点分野であるが、1986/87年度の政府予算は、前に述べたように、このプログラムの第1年度目となることを意図して作成された。その予算の内訳は上表のような規模となっている。

(よしだ・まさお/アフリカ総合研究プロジェクト・チーム)